

北東アジアにおけるインフラ投資資金調達－ADB と AIIB

東京大学公共政策大学院特任教授

河合正弘

インフラ投資の資金調達は、アジアの発展途上国や新興国にとって大きな課題であり、北東アジア（中国東北、北朝鮮、モンゴル、ロシア極東を含む）も例外ではない。アジア開発銀行（ADB）・アジア開発銀行研究所（ADB I）（2009）は、2010年から2020年間のアジアの開発のための総投資需要を8.3兆米ドル、すなわち年間7500億ドルと概算した。この研究その他を基に、河合（2013）は、交通、エネルギー、情報通信技術、環境という北東アジアで特徴的な投資需要が2010年から2025年間で、年間630億ドルになると概算し、130億ドルが外部資金源から動員されるだろう主張した。

国の政府は基本的にインフラプロジェクトの計画、資金調達、実施に責任を持つ。加えて、インフラ投資は外部の公的資金源、たとえば多国間開発銀行（MDB：世界銀行、ADB、他）や先進国の二国間資金提供機関（日本の国際協力機構（JICA）、国際協力銀行（JBIC）、他）から資金調達される。地域 MDB、特に ADB の役割は、それらが関係各国にとって信頼できる仲介者として行動することができるので、国境を超えたインフラプロジェクトに有効な手段となってきた。

近年、新興国からの二国間資金提供機関（韓国国際協力団（KOICA）、韓国輸出入銀行、中国国家開発銀行、中国輸出入銀行、他）は途上国のインフラプロジェクト資金調達において次第に重要なプレーヤーとなってきている。2015年末に新しく設立された中国主導のアジアインフラ投資銀行（AIIB）もまた、北東アジアを含むアジアにおけるインフラ投資資金需要の相当量を提供すると期待される。ロシアが（ADB の加盟国ではなく）AIIB の加盟国であることから、このことは特筆される。

ADB は、AIIB が潜在的な競争相手として設立されたことを受けて、いくつかの改革に着手している。アジア開発基金の基金統合を通じた融資能力の拡大や通常資本財源バランスシート上の融資活動の拡大、加盟国への支援のスピードアップや活動効率の向上、官民パートナーシップを通じた民間資金の活用などである。このことは AIIB 設立の肯定的な結果の一つであり、AIIB の設立は ADB をより競争力が高く効果的なものにするための改革を導いている。

本報告では、北東アジアにとってのインフラ投資資金調達の課題、ADB と AIIB の潜在的な役割、この二つの MDB の協力の様相について論じる。ADB と AIIB が、サブ地域におけるインフラ投資プロジェクト資金調達について、プロジェクトの準備、設計、資金調達、実施、事後評価を首尾一貫した方法で確実に支援できるよう、共に活動することは重要である。ADB は加盟国の要請に応え続ける必要があり、AIIB はその運営における社会的・環境的な安全を高い基準で達成しなければならないだろう。加えて、ADB と AIIB は北朝鮮の加盟に対する大きな潜在的利益を示すことができ、そのことにより、同国が最終的に国際社会に戻るため政治的・経済的な努力をするよう導くことになるだろう。

[ERINA にて翻訳]